

今月の
一枚



絶景の京都洛中を背にして（令和7年9月17日 京都・將軍塚にて）

順慶寺だより



印刷・発行 順慶寺
2025年（令和7年）

10月号

VOL.384

◆◆ 復活・御旧跡巡り ◆◆

順慶寺では、平成12年に御旧跡巡りの会（順慶寺会）を発足して、京都・滋賀・福井・石川・新潟・群馬・栃木・茨城・東京・神奈川・静岡などを10年かけて巡拝した。毎回50名ほどの参加を見て盛会だったが、今年、コロナを経て前回の番外編を含めた御旧跡巡拝を再スタートさせた。

◇この世は燃え盛っている◇

今月の釈尊の言葉は、『ダンマパダ』より、

「この世は燃え盛っているのに
どうして笑い、喜んでいられるのか？
闇の中にありながら
どうして燈明を求めないのか？」

（第一四六偈）

からの引用です。

今回は、釈尊の教えの核心を語る言葉で、
釈尊はよく弟子にこのことを諭されたと言
っています。

その中で、「この世は燃え盛っている」、この
言葉は、釈尊が悟りを得てまもなく語られた言
葉として、特に有名です。

釈尊は、釈尊の教えに導かれた多くの弟子
と共に、当時の大都市マガダ国に入国する前に、
マガダ国を見下ろすガヤ山という山に登り、山
上で仏教の核心を語りはじめられました。

「みなものよ。」

この世のすべてのものは燃えています。
熾烈たる様相に燃え上っています。

今月の釈尊の言葉

この世は燃え盛っているのに

どうして笑い、

喜んでいられるのか

『ダンマパダ』
第146偈より



若院のテーマカット NO.75



そのことを、みなはまず知るべきなのです。」

と始められた釈尊は、さらに、

「人々の眼は、その対象に向かって燃えていま
す。人々の耳は、そして鼻は、また舌も燃えて
います。その身体も、心もまた、その対象に向かっ
て熾烈に燃え上っています。」

それはすべて、貪欲の炎に燃え、瞋恚に炎を
上げ、愚痴の炎に燃えさかっている。」

と続けられました。

弟子たちは、おそらく、大都市マガダ国に入
る際に、釈尊から様々な行いに対する注意をさ
れると思っていたでしょう。しかし釈尊は、注

意どころか、仏教の核心を話されたのでした。おそらく、釈尊は、発展したマガダ国に吹き荒れている^②煩惱熾盛のありさまを意識されたのでしよう。弟子たちには、釈尊の言葉が人間世界のありさまを明示されたこととして深く刻まれました。

◆煩惱熾盛に生きるわが身◆

現代社会において、釈尊の生きた時代よりも大いに発展し豊かになったと思われまふ。

しかし、現代社会の諸問題とみていくと、世界で七億人が直面している貧困、貧困による教育と経済格差、歴史的背景や経済格差などによるテロや紛争、難民……。俯瞰するだけでも数えきれません。

その中でも、特筆すべきなのは、温室効果ガスの増大に伴う地球温暖化

の問題。この問題を放置すれば、大規模な気候変動や異常気象が起こり、千ばつや洪水、熱波や寒波、大規模な山火事などが頻発し、人間生活を続けることさえ困難になるとされています。

先月の寺報では、北海道のヒグマ事件を取り上げさせていただきましたが、今回は、順慶寺のトレードマークとしていた山門の門松の枯れの報告をさせていたかなければなりません。

おそらく、百五十年以上、順慶寺の参詣者を見まもってきた門松ですが、ここ二・三年の高温で遂に枯れてきてしまいました。枯れてくると、これまでだけ門松に癒されてきたか、を深く実感します。

煩惱熾盛に生きるわが身のために、門松が犠牲になってしまいました。今は深い懺悔の思いです。

①この世は燃えている

釈尊成道の地・ウルヴァーラーに戻って、迦葉三兄弟が率いる教団（千人）を神通によって調伏・教化したエピソードに出てくる一節。このときのエピソードは、「三種の奇蹟」として有名。三種とは、釈尊の神通力による奇蹟、釈尊の他者の心を見抜いて教示する記心の奇蹟、そして「この世は燃えている」というような譬を使っていく教誡の奇蹟をいう。これらは、『雑阿含経』

②煩惱熾盛

『四分律』などの經典に出る。煩惱熾盛とは、人間の欲望（煩惱）が燃え盛る炎に譬えられた仏教特有の表現。親鸞聖人がよく使われた言葉でもあり、『歎異抄』の第一条には「弥陀の本願には、老少善悪のひとをえらばれず、たゞ信心を要とすとするべし。そのゆへは、罪惡深重煩惱熾盛の衆生をたすけんがための願にてまします」とある。



最近仏壇のローソクで火事になったという話を聞きました。ローソクはいつもでつけておくのですか。



ローソクの火事です。私たちが仏壇のローソクで火事になった、と聞く心が騒ぎます。一生懸命に

お仏壇でお参りされた方が悲劇に遭われるのは、とてもつらいことです。

世間では、ローソクに火を点すことは先祖が現世に帰るためにあかりをつけておくとか、暗闇をなくして邪鬼を払うとか言われているようです。その意味では、我が家に暗闇ができないように、仏壇にローソクをあげて灯りを点すこと

は当たり前のように思っています。

ところが、真宗のお仏壇には、真ん中に阿弥陀様がましまし、その両脇には私たちに教えを説いて下さった、親鸞聖人と蓮如上人を掲げています。つまり、仏壇の中は智慧であふれ、私たちを導いてくださる世界です。その世界に往かれたご先祖さまは、仏さまの世界が智慧であふれているので、迷うことがありません。ですから、普通はローソクに灯りを点す必要はありません。

ではいつローソクに火をつけるかですが、それは仏さまから智慧をいただくときです。仏さまから智慧をいただくお座が法事や命日参りですから、その際にはお経をいただき、智慧をいただくようにします。

ですから、普段、仏壇ではローソクを点しません。普段は、線香に火をつけて香炉に入れて、お参りしましょう。

《第六十六回 すくい》

ある学習会で、「浄土真宗のすくいとはなにか」ということが、話題になりました。

私を含め、みなそれぞれが思う「すくい」を挙げていたので

すが、その中である人が「頭の中ひねり出したすくいは、自分にとって都合のいいすくいでは

ないか」とおっしゃいました。たしかに、自分の考えていた「すくい」は自分一人楽になりました

い思いが多分に含まれていたように感じます。

浄土真宗にひらかれたすくいは、本当でしょうか。

また一つ疑問となりました。

お寺とともに

「たてのいよ」



松が枯れてしまいました。

この夏の猛暑で弱ったところの松食いの被害でみるみる悲しい姿になる松。暑さの中、日々あくせくしておりましたが、いったい何をあくせくしていたのか、愕然としてしまいました。ただ目の前のことだけを頑張ってもダメなんだと改めてかんがえさせられます。

悲しい気持ちになりながら、前に住職から聞いた「たての系」の話を思い出しました。お経の「経」の字は「縦系」の意味があると。お釈迦様のはるか昔から現在まで貫く普遍的な「たてのいよ」があつてこそだと聞きました。

大事なことをわすれて、いくら日々目の前のことに汗を流しても松が枯れてしまふ。

人生もそのように「たてのいよ」なしで日々を積み重ねても振り返ると虚しく空虚になりかねない、と松が教えくれました。

見事な庭園で有名な足立美術館の庭師の親方は日々の仕事の前に「時間もの間、庭の全景を眺めるのだそうです。目の前の草や伸びた枝、落ち葉だけを見ていては本当に大事なことはわからないのだ。生活の中に仏様の教えがあるのも同じ思いがします。

熱中症特別警戒アラート発令の中

万全の体制で祠堂法要厳修

さる9月12日(金)、猛暑のなか祠堂法要及び俱会一処式が開催され、空調を効かせた本堂や庫裏に大勢の参詣者を迎えることができました。

9月に入っても夏の猛暑がおさまらず、四十日以上も35℃を超える気温を記録して、9月の中旬になって暑さが収まる気配の無い異常気象。祠堂法要の当日も、朝から30℃を超える酷暑となっていました。幸いにも当日は曇り空で、日中の気温が35℃ほどだったため、それまでの熱中症特別警戒アラートが連日発令された中では、比較的過ごしやすかったです。

ただ、熱中症警戒アラートが発令されている中で、法要を実施するにあたって、配慮し準備したこととして、①本堂・玄関・庫裏に早朝よりエアコンを入れ温度管理をすること、②支障の無いところの雨戸を閉めること、③空気清浄機などを使い換気を十分にすること、などです。



満堂の参詣者を前に法話する伊奈先生

平成二十一年以来十六年ぶり 親鸞聖人御旧跡巡り復活

さる9月17日、順慶寺同朋会主催で、親鸞聖人御旧跡巡り①を開催しました。参加者は13名。順慶寺としては平成21年以来十六年ぶりの復活となります。

酷暑の続く当日、順慶寺からマイクロバス二台で出発し、京都東山の將軍塚に向かいました。將軍塚は、京都の絶景が一望できる場所として有名で、参加者一同「絶景かな」と大歓声。

そこから、知恩院まではバスで行くのが一般的ですが、今回は、自然歩道を下って、途中の「法垂窟」の御旧跡に立ち寄りしました。ただ、かなりきつい下り坂だったので、

届けがあり、本堂のイス席も参詣者でほぼ満席となりました。

法話は例年通り、西尾市安楽寺前住職の伊奈祐諦氏。毎年名調子のお話を聞かせていただいています。今年には東本願寺より『亡き方の声に耳を澄ませて』が出版され、その中に弟である故中村薫先生ともに原稿が掲載されたこともあり、亡き人の声を聞くことの大切さをお話下さいました。

当日は、お勝手会の皆さん、すみれ会・むつみ会の皆さんがお抹茶接待やお齋接待を担当して下さい、盛会のうちに法要を終えることができました。

特別寄進(御仏供米二斗)鈴木市成様 塚本敬様(お斎材料) お勝手会の皆様

皆さんバテ気味になってしまいました。

その後、浄土宗大本山・知恩院と吉水・安養寺にお参りして、京都市役所までバスに乗って移動。新京都の浄土宗西山深草派本山誓願寺にお参りして、おばんざい「のむら」で舌鼓。最後に百日参籠の御旧跡・六角堂にお参りして、帰路につきました。



京都・六角堂にて

9月度護寺会物語(敬称略)

釋好樹

9月24日寂岡本好司(75)

市場上組 杉田清美様の兄

一名の順慶寺護寺会員の方が生前の役割を終えられ、浄土におかえりになられました。合掌



山門の門松が松枯れ危機

順慶寺のトレードマークの一つで、先の御遠忌の記念手拭いにデザインされた、山門の松が、この夏の暑さから急激に弱り、松食い虫によると見られる松枯れ危機に陥っています。順慶寺山門の松は、すでに百五十年以上の樹齢があり、平成元年に門門塀を造った際には、山門の松を護るため、塀の形状を変えたほど。

ところが、この夏の暑さで、庭石に隣接していた、庫裏の松と山門の松が(おそらく庭石による遠赤外線などによって)急激に枯れ始めました。とくに山門の松は、代々の庭師によつて大切に保護され、五年に一度の消毒も欠かせなかったため、関係者のショックは大きいものです。とりえず、根に「ニフタカ」という肥料を与えましたが、回復は難しいかもしれません。

編集部短信

◆寺カフエ、琴演奏会を延期 有志運営の寺カフエは、9月1日に予定されていた「ちさの会」による琴演奏会を12月に延期。9月に入っても35℃以上が続く異常高温の中、高齢者が集まるイベントが相次いで中止や延期になったことを受けての措置。

◆来年の祠堂法要は9月26日 来年の祠堂法要は、9月26日(土)となった。昨今の異常高温に対して、9月上旬の法要は、高齢者が多く集まるため、危険だとの判断した。ただし、盆会は本年同様8月実施の予定。

編集雑記

境内や山門の松枯れはショックでした。例年以上高温だった今年、庭の手入れの費用を軽減するために、手入れの一部を家族ですることに矢先の出来事だったために一層ショックでした。ただ、松は剪定が難しく、これもすべて専門の庭師に委ねていましたが、それでもダメでした。今年、各地で松枯れが出たそうですが、まさか、順慶寺の大切な松がやられるとは……。 (住)

……

涼しい日が来たと思ったのも束の間、すぐに暑さが戻ってきました。寒暖の差に耐えきれないのか、私の育てている観葉植物もすっかり参ってしまっているようです。(若)



10月の主な行事予定

日	曜	行事内容	掃除当番
1	水	寺カフェ(9:00～、順慶寺本堂南落間他)	
2	木		木-1
3	金		
4	土	順慶寺公開講座(14:00～、順慶寺本堂)	
5	日		
6	月	お楽しみ会(14:00、順慶寺本堂)	
7	火		
8	水		
9	木	現量委員会(14:00、順慶寺玄関)	木-2
10	金	護寺会バス旅行	
11	土		
12	日		
13	月	スポーツの日	
14	火		
15	水	むつみ会「ゆるふわ体操」(14:00、順慶寺本堂)	

16	木		木-3
17	金		
18	土	順慶寺こども会(9:00、順慶寺本堂)	
19	日		
20	月		
21	火		
22	水	助音講(16:00、順慶寺玄関)	
23	木		木-4
24	金		
25	土		
26	日		
27	月		
28	火	宗祖聖人御命日(7:00、順慶寺本堂)	
29	水		
30	木	報恩講事前連絡会(19:00、順慶寺玄関)	
31	金		

10月行事内容 詳細

順慶寺公開講座

九代玉屋庄兵衛&末松良一

「からくりの世界」から人形の驚きと感動を

10月4日(土) 午後2時開演

午後1時受付開始

午後1時30分開場 順慶寺本堂

本年の公開講座は、NHKテレビ「プロフェッショナル仕事の流儀」でも独占放映されたことのある、からくり師の九代玉屋庄兵衛氏と、からくりの仕組みを解説される名大名誉教授の末松良一先生をお招きし、からくりのしくみについて実演・講演していただきます。

入場は無料ですが、本堂で観覧するには入場券が必要となります。事前に順慶寺までお問合せください。入場券は、一五〇枚までです。

護寺会バス旅行

10月10日(金) 奈良・薬師寺ほか

本年も護寺会主催のバス旅行が企画されています。目的地は、奈良(薬師寺・般若寺ほか)です。

募集は、バス一台45名。会費は一万二千元。申込×切は9月30日までです。日程等の詳細は、参加を申込された方に事前に配布する予定です。

お知らせ

●むつみ会「ゆるふわ体操」について

むつみ会主催で、橋本久美子先生にお越しいただき、体の血行をよくする「ゆるふわ体操」を教えていただきます。「ゆるふわ体操」は、セルフ整体レッスンと銘打って、ゆるやかにふわっと体をほぐしていきます。10月15日14時から順慶寺本堂で実施。むつみ会以外の方も参加できますので、是非ご参加ください。

●本山報恩講団参について

今年も来たる11月21日に岡崎教区21組主催による、本山報恩講の団体参拝が企画されています。要項は左記を参照してください。

記

目的地 東本願寺他

日にち 11月21日(金) 日帰り

本山報恩講初日

出発 発午前7時半ごろJA他

参加費 一万二千元(一人)

×切 10月19日・順慶寺まで

じゅんこのときめき歳時記

シオン

みなさん、お彼岸を過ぎてようやく涼しい日ができましたね。長い夏だったので、急に涼しくなっていると体調を維持するのが大変ですね。

秋になると、いろんな花が咲き始めます。そんな中で、ゲームなどよく聞くキャラクターでもある紫苑が有名。秋の花の名前だと聞きました。紫苑は、九州から四国に自生し、青紫色の少し背丈の高いキク科の花のことですが、近くであまり見かけなかったで、よく知りませんでした。

紫苑の花言葉は、「追憶」「あなたを忘れない」と大切な人を思いやること。『今昔物語集』の中で、父を亡くした

思い出は

音のないまま紫苑咲く

河野志保

